

たか はし ひで のり

高橋秀典県議会レポート

発行 / 自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

「種子条例」制定求め提言!

2月県議会一般質問に登壇



一般質問に臨む高橋県議

を制定し、県が主体となって、優良品種の選定や、種子の安定供給に取り組んでいるところです。

このような中、将来の種子価格の高騰や、新品種の開発に対する県の関与の後退を心配する生産者の方から、将来、安心して営農に取り組みたいという声が出ており、要望もな

されました。

このため、幅広く農業者の意見を聞く中で、種子条例の必要性について検討してまいります。

要望 生産者にとって、生命線ともいえる、安価で安定した種子の供給について、不安の声が聞かれます。また、採種農家からは、高齢化に伴い、次世代への技術継承に対する不安の声も聞かれます。

主要農作物すなわち米、麦、大豆といった国民の食を支える種子の生産を、財政措置も含め、今後県が責任を持って行うことを、県条例として定めるよう、強く要望します。

施設園芸の強化へ

旭市選出で、県議1期目ながら積極的な議会活動を展開する高橋秀典(たかはし・ひでのり)県議は、県の新年度予算案を審議する2月定例会議の本会議場で、一般質問に登壇し、昨年の台風災害で大きな被害を受けた施設園芸へテコ入れ策を求め「災害に強い千葉の農業」を訴えました。また、一般質問から7日後の予算委員会質疑にも登壇し、地域の主産業である養豚農家のCSF対策などで要望しました。高橋県議の一般質問を1面で、予算委員会質疑を2面で特集しました。

条例制定のPT発足

高橋議員 わが党へは、将来にわたって法に基づいた優良種子の配布を求める農家などから、現行要綱の中で実施している事項を盛りこんだ、県条例の制定を求める声が寄せられています。

このため、党内に「種子条例プロジェクトチーム(P.T)」を発足させ、条例制定に向けた調査・研究を進めてきたところ、早期の条例制定が必要との結論に至りました。

そこで伺います。県では、主要農作物の種子条例の制定について、どのように考えているのか。

農林水産部長 県では、主要農作物種子対策要綱

高橋議員 これからは「災害に強い千葉の農業」その構築に向けて、全力で取り組んでいかなければなりません。中でも、被害の大きかった施設園芸については、復旧支援と同時に、今後の強化に向けた早急かつ抜本的な対策が必要です。

また、災害に強い農業を目指すうえで、電源の安定的確保も重要な課題です。そこで伺います。施設園芸の強化に向けて、どのように取り組んでいくのか。

このため県では、国の制度も活用し、風水害に強い低コストの耐候性ハウスへの転換や、筋交いの追加によるハウスの補強などの取り組みに対し支援するとともに、研修会を開催し、補強の方法や保守管理の重要性など、理解の促進を図っているところです。

また、長期停電の際、給水ポンプや換気装置などを作動させるために必要となる非常用電源についても、新たに国が助成対象として加えたことから、現在、生産者の要望を把握するための調査を行っているところであります。今後も、災害に強い施設園芸産地の育成に努めてまいります。

河川の浸水想定

高橋議員 水防法の指定する26河川以外の浸水想定について、今後どのようにすべきと考えているのか。

県土整備部長 県では26の水位周知河川について、「想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図」を、次の出水期前の5月末までに公表することにしていきます。

浸水想定区域図の作成には、国の作成したマニュアルに従い、既存の地形等のデータを基に、市町村の協力も

要望 あらかじめ候補となる河川を絞り込んで、少しでも早く、市町村のハザードマップ作成につなげ、県民の生命と財産を守るよう、今から最大限の準備を進めていただくよう要望します。

高橋議員の質問項目

- ①施設園芸農業の強化について(別掲)
- ②農福連携の推進について(別掲)
- ③スマート農業の推進について(別掲)
- ④主要農作物の種子の生産・供給について(別掲)
- ⑤河川の浸水想定について(別掲)
- ⑥自主防災組織について(別掲)
- ⑦道路問題について(別掲)

CSF対策

野生イノシシ捕獲の継続を!

2月議会予算委員会にも登壇



予算委の質疑者席に立つ高橋委員

高橋県議冒頭あいさつ

冒頭に当たり、新型コロナウイルスの感染拡大が、1日も早く収束することを願います。県内経済においても、その景況が顕在化してまいりました。観光・飲食を中心としたサービス業、また中国などの取引で成り立つ中小企業などからは、深刻な声が聞こえてまいります。

国からは支援策が打ち出されているところではありますが、人と同じで企業も体力のないところから倒れていきます。緊急のつなぎ資金の手当て等、制度を活用し、金融機関や商工会等と連携し、迅速かつ積極的な支援を行なっていたいただきますよう、お願いするものです。

予算案に経費計上

高橋委員 すでにCSF(豚コレラ)感染が確認されている他県では、野生イノシシが感染拡大の一因となつて

いると考えられることから、CSF対策として、野生イノシシの捕獲を強化することとは非常に重要だと考えま

査を実施した結果、ウイルスは確認されませんでした。高橋委員 CSF対策として本県でも、先月から養豚場の豚に対するワクチン接種が始まっていますが、野生イノシシの捕獲事業は来年度も実施するののか。

環境生活部長 豚にワクチン接種した場合でも、接種の効果が現れないケースも見られることから、来年度も引き続き、捕獲重点エリアで野生イノシシの捕獲事業を実施するために必要な経費を当初予算案に計上しています。

要望 今後も引き続き、野生イノシシの捕獲を継続し、イノシシを媒介とした豚へのCSFウイルスの感染リスクを下げる

現在、CSF対策として、県で実施している野生イノシシ捕獲事業のこれまでの実績はどうか。自然保護課長 CSF対策で実施している野生イノシシ捕獲事業は、昨年11月から捕獲を始め、本年1月末現在で94頭の野生イノシシを捕獲しました。なお、捕獲したイノシシ60頭について、CSFの検

中・高生の悩み相談

高橋委員 県教育委員会では、昨年度、県内の高校に通学する高校生を対象に「いじめ」「友人関係」「家族関係」など、さまざまな悩み相談を、LINEを通

して受け付ける「そと悩みを相談してね」SNS相談@ちばを行ったところです。子どもたちにとっては、さまざまな悩みを、気軽に、誰にも知られずに相談でき

る窓口として、大きな効果があったと思います。このたび、対象を中学生に拡大し、相談期間も延長することです。そこで伺います。中学生・高校生を対象としたSNSを活用した相談事業について、具体的な期間や告知の方法はどうか。

児童生徒課長 来年度のSNSを活用した相談事業については、対象を中学生まで拡大することとし、本年4月29日から来年度3月28日までの期間で実施します。

要望 事業者の選定に当たっては、相談員の質に十分留意されるよう要望します。

高橋委員 銚子連絡道路は、銚子市・旭市・匝瑳市、東総地域にとっては、まさに悲願の道路です。そこで伺います。事業中の横芝光町・匝瑳市間における進捗状況はどうか。道路整備課長 事業を実施している横芝光町から匝瑳市間の5キロについては、用地取得率が88%とな

要望 横芝光町・匝瑳市間の市間の予定通り令和5年度までの開通を、しっかりと遅滞なく進めていただくよう要望します。

高橋委員 匝瑳市までは、令和5年度の開通というところで、ゴールが見えてきました。残る調査区間の匝瑳市・旭市間について、検討状況はどうか。道路計画課長 匝瑳市から旭市までの約13キロ区間については、環境調査や周辺の土地利用状況などを踏

要望 事業区間の完了を待つことなく、匝瑳市・旭市間がなるべく早く事業化に至るよう要望します。

また、CSF対策として、野生イノシシを介したCSFウイルスの感染拡散状況を監視することが重要です。本年度同様、重点エリアで捕獲されたイノシシについて、ウイルスチェックも継続するよう要望します。

相談日は週2日となりますが、長期休業明けなど相談件数が多く見込まれる時期には、毎日実施することを予定しています。生徒へは、来年度早々にフレットを、夏休み前には携帯用カードを配布するなど、複数回周知の機会を設け、更なる活用を促していきます。

支援学校に発電機を

高橋委員 県立特別支援学校の医療的ケア用自家発電機の整備状況はどうか。特別支援教育課長 これまでは、医療的ケアの機器本体のバッテリーに加え、予備バッテリーも準備することで、停電等の緊急時に備えてきました。ただし、学校によっては更なる事態も想定し、ポータブル発電機等を整備する例もあり、今回の災害を機に県教委が調査した結果、県立特別支援学校36校中15校に18台の発電機が整備されている状況が分かりました。

●県政と旭市に関するご意見をお寄せください。

高橋秀典 県議事務所

〒289-2516 旭市口-1551-4
TEL.0479-62-6896 FAX.0479-62-6897

Eメール.mail.keimeikan@gmail.com